

フレキシブルな働き方提案し3世代従業員定着

(株)中田商事(中田純一社長、三重県伊賀市)は昨年、企業主導型保育施設「どんぐり保育園」の運営を開始した。自社の福利厚生を充実させるとともに、子育て等で働きたくても働けない女性の潜在労働力を掘り起こすことが目的。

企業主導型保育事業とは、会社がつくる保育園のことで、内閣府が新しく制度として確立し、待機児童解消の切り札と目されている。待機児童が多い地域は、子供を預ける先がなく、夜間・休日シフトのある働き方の場合、対応できる認可保育所は限られている。だが、企業主導型保育であれば、遅い時間までの延長保育や夜間保育、日

祝の休日保育、1日4〜5時間や週2、3回などの短時間保育など、柔軟に対応できるのが特徴だ。

中田社長は、「あるタクシー会社が企業主導型保育園をスタートさせ女性タクシードライバーを募集したところ応募が殺到し、女性比率が4割近くまでアップしたという。幼い子を抱える母親にとっては、子供を保育園に入れることができ、働くこともできる。企業にとっても労働力の確保につながる」ときっかけを説明。「私たちは、『質の高い保育』を通して社会に貢献出来る企業であり続けます」を企業理念に掲げ、運営もオープン当初は外部に委託していたが、現在は自社で行っている。



時給制と保育園運営によってフレキシブルな働き方を提案している

同社では、2010年の時間給制度の導入以降、子供の送り迎えの時間を避けるなどフレキシブルに労働時間を活用できる機会が増え女性や未経験者、高齢ドライバーが増加。3世



代が働く職場となっている。また、女性ドライバーに至っては、全ドライバーの2割にまで達している。そして、今回のどんぐり保育園の開園によって、働く、あるいは働きたいママにとってさらに環境が整備された。「トラック運送会社が保育園を運営していると聞くと皆が驚く。固定観念としてある業界のイメージを少しずつ変えられたらいいと思っている」と、中田社長は話す。